

古文 品詞分解 (動・助動詞) 「徒然草」世に語り伝ふること」 「問題①

世に^①語り伝ふること、まことはあいなき^アにや、多くは皆虚言^イなり。

②あるにも③過ぎて人は物を④言ひなすに、まして、年月^⑤過ぎ、境も⑥隔たり^ウぬれば、

⑦言ひ^エたきままに⑧語りなして、筆にも⑨書きとどめ^オぬれば、やがてまた⑩定まり^カぬ。道々

のものの上手のいみじきことなど、かたくななる人の、その道^⑪知ら^キぬは、そぞろに神の

くごとくに⑫言へども、道^⑬知れ^ケる人は、さらに信も⑭起こさ^コず。音に⑮聞くと⑯見るときとは、

何事も⑰変はるもの^サなり。

かつ⑱あらはるるをも⑲顧み^シず、口に⑳まかせて㉑言ひ散らすは、やがて㉒浮き^スたることと

㉓聞こゆ。また、我もまことしから^セずは㉔思ひながら、人の㉕言ひ^ッしままに、鼻のほど

㉖おごめきて㉗言ふは、その人の虚言^タには㉘あら^チず。

古文 品詞分解 (動・助動詞) 「徒然草」世に語り伝ふること」 「解答①

世に^①語り伝ふること、まことはあいなき^アにや、多くは皆虚言^イなり。
ハ下二体 断定 断定

② あるにも^③過ぎて人は物を^④言ひなすに、まして、年月^⑤過ぎ、境も^⑥隔たり^ウぬれば、
ラ変体 同上二用 同上二用 完了
⑦ 言ひ^エたきままに^⑧語りなして、筆にも^⑨書きとどめ^オぬれば、やがてまた^⑩定まり^カぬ。道々
ハ四用 願望 サ四用 同上二用 完了

のものの上手のいみじきことなど、かたくななる人の、その道^⑪知ら^キぬは、そぞろに神の
ラ四未 打消

比況 ⑫ 言へども、道^⑬知れ^ケる人は、さらに信も^⑭起こさ^コず。音に^⑮聞くと^⑯見るときとは、
ハ四用 存続 サ四未 打消 カ四体 同上二用

何事も^⑰変はるもの^サなり。
ラ四体 断定

かつ^⑱あらはるをも^⑲顧み^シず、口に^⑳まかせて^㉑言ひ散らすは、やがて^㉒浮き^スたることと
ラ下二体 同上二未 同上二用 同上二用 存続

ヤ下二終 打消 ⑳ 聞こゆ。また、我もまことしから^㉓思ひながら、人の^㉔言ひ^シしままに、鼻のほど
ハ四用 過去

㉕ おごめきて^㉖言ふは、その人の虚言^タには^㉗あら^チず。
カ四用 断定 同上二未 打消